

# 村民一人ひとりの復興をめざして

国による除染が当初の計画から大幅に遅れ全村避難が継続する中、村では、村内の復旧・復興に関する事業の準備を進めるとともに、村民一人ひとりの復興を支援する取り組みについて検討を重ねています。この特集では、復興に向かう村と村民の現在の歩みをお知らせしながら、改めて「村民一人ひとりの復興」について考えていきます。

## 行政区のワークショップも

いくつかの行政区では、行政区単位のワークショップを開いています。

10月に開かれた4つの行政区のワークショップでは、久しぶりに顔を合わせた人が話し合いの中で互いの近況を親身に聞き合うようすが印象的でした。他にも区の懇親会の機会を使って話し合いの場を持つ行政区、今後ワークショップを開く計画の行政区もあり、離ればなれに避難する区民の意見を集めるための努力が続いています。



10月5日、深谷行政区のワークショップ。小グループに分かれて話し合いが行われていました



10月24日のワークショップのようす

## 行政区地域づくりワークショップの流れ



## 行政区地域づくりワークショップ

いいたてまでいな復興計画第4版に行政区の声を

### 復興計画は第4版へ

避難生活が長引く中、家族の成長や体調の変化などにより、村民の多くが、避難指示解除後の生活設計について悩みを抱え、選択を迫られています。また、帰村した場合の、放射線の影響に対する考え方も多様です。そうした村民の「村に戻る」「すぐには戻れないがいずれ戻りたい」「戻らない」といったさまざまな選択に寄り添うため、村の復興計画は「村民一人ひとりの復興」を旨と掲げています。

復興計画の第3版までに挙げられた施策や事業を具体化するため、第4版に向けて「いいたてまでいな復興計画推進委員会」が9月に再始動しました。また、具体化にあたり、地域ごとの計画も盛り込むことができるよう、「行政区地域づくりワークショップ」が並行して行われています。

### ワークショップの開催

ワークショップは、7月にスタートしました。各行政区の代表者を中心に、実情に即した課題の洗い出しが行われています。8月には中間報告会が開かれ、その後もそれぞれの行政区で、継続的に話し合いがもたれています。

また、10月21日から25日には、飯野出張所に毎晩数行政区が集まり2回目のワークショップを行いました。

復興計画の策定を支援している株式会社総合研究所が、区ごとの経過をシートにまとめています。そのシートを各テーブル中央に大きく広げ、各区の代表と役場のコミュニティ担当職員らが、意見を交わします。区ごとに人口規模や土地利用などの特徴に沿った内容が話されていました。そして個人の考え方も、多様な実情を知るために欠かせないものです。シートには、発言が次々と付け加えられました。また終了時には、話し合いの流れを報告し合い、共通の課題や地区の情報を共有しました。

今後取りまとめられる行政区ごとの「地域づくり計画」は、村全体の復興計画にも反映されます。

